

□ 主な内容

【地域公共交通活性化に向けたセミナー等を開催します！】

エコモ財団が主催／共催し、地域公共交通活性化に向けたセミナー等を開催します。

● 暮らしの足をみんなで考える全国フォーラム 2017【2017/10/28,29】

<http://zenkokuforum.jimdo.com/>

● 第 15 回 地域バス交通活性化セミナー【2017/11/17】

[http://www.ecomo.or.jp/environment/bus/15th\\_seminar.html](http://www.ecomo.or.jp/environment/bus/15th_seminar.html)

【エコドライブシンポジウムを開催します！】

エコモ財団は、エコドライブ活動コンクールの表彰式を兼ねたシンポジウムを 11 月 29 日 (水) に東京で開催します。皆様からのご参加をお待ちしています。

[http://www.ecomo.or.jp/environment/ecodrive/data/ecodrive\\_sympo17.pdf](http://www.ecomo.or.jp/environment/ecodrive/data/ecodrive_sympo17.pdf)

□ 目次

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 135 回)

● 「『暮らしの足』の確保を地域が取り組むにあたって」

【東洋大学国際学部国際地域学科 教授 岡村 敏之】

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 135 回)

● 「これからの地域公共交通を担える自治体となるために」

【岐阜市企画部 交通総合政策審議監 青木 保親】

3. ニュース／トピック

● 第 16 回「日本鉄道賞」の受賞者の決定について【国土交通省】

● リヤカー付三輪電動アシスト自転車のアシスト力が引き上がります【国土交通省、経済産業省】

● 「スマート交通一般に関するガイドライン」の国際規格の発行について【経済産業省】

● 神戸の都心内で観光バスの路上混雑緩和に向けた実証実験について【近畿運輸局】

● 「とちぎの公共交通と芳賀・宇都宮 LRT」パネル展の開催について【栃木県】

● バス乗り放題デーの実施について【伊那市】

● 石垣島におけるエコアイランド化推進に関する提携について【住友商事株式会社】

● 黒鉛の 2 倍容量の新酸化物負極を採用した次世代二次電池 SCiBTM を開発【株式会社東芝】

● 「バスロケーションシステム」リリースについて【株式会社ゼンリンデータコム】

●バッテリー技術の新たな研究開発拠点を設立【イギリスビジネス・エネルギー・産業戦略省】

#### 4. イベント情報

●くらしの足をみんなで考える全国フォーラム 2017【2017/10/28,29】

●第 24 回 ITS 世界会議モントリオール 2017【2017/10/29-11/2】

●平成 29 年度地域公共交通シンポジウム in 中部【2017/11/2】

●2017 E-KIZUNA サミットプレミアム in さいたま【2017/11/7】

●エコモビリティライフ県民の集い 2017【2017/11/8】

●エコ&セーフティ 神戸カーライフ・フェスタ 2017【2017/11/11,12】

●第 15 回 地域バス交通活性化セミナー【2017/11/17】

●平成 29 年度エコドライブシンポジウム【2017/11/29】

●第 15 回 ITS シンポジウム 2017【2017/12/7,8】

●エコプロ 2017【2017/12/7-9】

●第 13 回全国路面電車サミット【2018/1/13,14】

#### 5. その他

●EST パートナシップ会員制度に参加する団体を募集しています！

●EST 普及推進委員会事務局は Twitter による情報提供を始めています！

●「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ

●エコ通勤優良事業所を認証登録しています！

●交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！

●交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！

●記事募集中！

---

---

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 135 回)

●「『くらしの足』の確保を地域が取り組むにあたって」

【東洋大学国際学部国際地域学科 教授 岡村 敏之】

少子高齢化が進む中で、日常の通院や買い物等に困難を抱える人々が全国で増え続けています。このような「くらしの足」の問題を解決に向けて、市民、行政、交通事業者、NPO などの様々な人々が一同に集まって討議や情報交換を行う「くらしの足のみんなで考える全国フォーラム 2017」(共催: 交通エコロジー・モビリティ財団)が、このメールマガジンが発行されてすぐの 2017 年 10 月 28 日と 29 日で開催されます(当日参加も歓迎です!)。関係者の方々に支えられ、今年で第 6 回目を迎えました。この数年、本フォーラムの実行委員長を拝命していることもあり、このフォーラムに関連するいくつかの話題を記したいと思います。

まず一つ目は、地域の足を確保する手段は、鉄道、バス、タクシー以外にもさまざまあり、いまいろいろな取り組みが全国で行われていることです。地域の足をどうやって確保するか、悩んでいる人々や地域は多いかと思いますが、思ってもみないようないろいろな取り組みや連携があることをぜひ知っていただきたいと思います。対象とする人々や、移動の担い手、地域の特性は文字通り様々で一つとして同じものはありません。それをふまえて、他の事例をぜひ「理解」して「参考」にしつつも、形にとらわれた「真似」をしていただきたくありません。たとえば上記のフォーラムも、全国の異なる地域で同じような課題を抱える関係者どうしが交流をしていただいて、それぞれが抱える問題解決のヒントを得る「気づき」の場と考えています。「ヒントは自分たちの外にある。解決策は自分たち自身にある。」がポイントです。

もうひとつは、地域の足を確保することの目的です。今年はこのフォーラムの副題を「元気な地域をつくろう」したことと大いに関係があります。わたしたちが目指すものは、単にくらしの足を提供し確保することに留まるものではなく、人々が気軽に外出できることを通して、全てのひとが様々な日常の生活活動を行うことができること、そして全てのひとが地域社会とつながることができること、にあります。すなわち、「くらしの足」はそのための重要な「手段」ではあっても、「目的」そのものではありません。そう考えると、たとえば「公共交通不便地区の解消」を目指したバスやデマンド型交通の取り組みは、それだけに留まっていれば、「移動手段は用意しました。これで我々の役割は果たしました。それを使って生活を持続させていくのは皆さん次第。」という(従来型の)交通施策でしかありません。「手段」をつかって地域をどうしたいか、地域の人々にどうなってほしいか、というその先についても、いま「交通の担い手」や「交通計画者」の役割になりつつあります。

「交通に留まらない交通」。これがすべての交通に携わる者が考えるべきことと私は考えています。

---

## 2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 135 回)

### ●「これからの地域公共交通を担える自治体となるために」

【岐阜市企画部 交通総合政策審議監 青木 保親】

#### (地域公共交通は方程式が無い)

地域の移動を支える公共交通は、地域のニーズに合ったものでなければ、地域に根付いて利用されることはありません。これは、言葉で簡単なのですが、行政が地域を丹念に見続け、その変化を読み取り、そこに住む人の目線でその地域に適した公共交通をつくりあげていくには、公共交通事業者はもとより、様々な人の意見をコーディネートしていく力量と知恵と見続けていく覚悟と継続していく忍耐力が必要となります。

公共交通には、方程式が無いと言われ、どこかの手法をまねればうまくいくものではありません。単一の自治体でも中心市街地、周辺部、郊外部で人口、人口密度、高齢化率や人口減少のスピード、区域の広さ、都市施設の立地状況、川や山などの地勢など様々な要因に加え、住む人の気質などから、バスを走らせてみなければ乗ってもらえるかわからない。例えばコミュニティバスを走らせても、走らせるだけでは利用者も増えない、短期間で運行を取りやめれば地域の魅力が益々低下してしまう負の循環から抜けられなくなってしまいます。こうしたことが公共交通の再生や活性化を難しくさせ、自治体が二の足を踏む大きな要因と考えています。

#### (地域公共交通は今が正念場)

我が国では、人口が減少するのに伴い、生産年齢人口も減少し、地方都市のバス利用者の減少に歯止めがかかっていません。更に、全産業で人手不足が深刻化しており、特に社会に必要とされる公共交通の担い手であるバス運転手やバス整備士不足はより深刻化しております。運輸産業は、労働集約型産業であるため、こうした輸送を支える人が不足すれば継続していくことが困難となります。

こうした事態が発生していることは、国を始め、業界団体から発信されて、企業は様々な取り組みを始めてはいますが、抜本的な解決とはなっていません。一方で、この問題を深刻な問題ととらえている自治体はまだ少ないのではないかと感じています。

地域公共交通は、経営環境、雇用面からも正に存続の危機にあります。自治体は、「地域公共交通は今が正念場」であることを早く認識し、交通事業者と連携し、地域住民の日常生活の移動を支える取り組みを今すぐにも始めることが必要です。

#### (何から始めるのか)

何から始めるのか、初めていいのかもわからない、自治体も多いのではないかと思います。ここで、先ず地域を見て地域の人と話す、地域を走る公共交通の実情を事業者から聞くことから始めることです。

そうした一歩が、地域交通の持続性を高めていく第一歩だと思っています。

(自治体にも公共交通の担い手を)

自治体は、公共交通に関しては、公営交通を除くとこれまで国や運行事業者任せで、傍観者であり続けた期間が長く、自治体の業務としての認識が無く、未だに公共交通は企業任せが多いのですが、既に、交通事業者単独では地域公共交通が支えられない事態になって長い時間が経過し、この間に廃止や減便などが繰り返されているにもかかわらず、交通事業者と自治体の溝は埋まっていないのではないかとと思っています。

市民生活の移動手段を最終的に守っていくのは、自治体の責務であるということを組織として再認識し、自治体の強みを生かして、地域公共交通の持続性を高めていく力が求められています。自治体は、地域住民との信頼関係、地域とのコーディネート力や地域に関する様々なデータを収集できます。こうした自治体の持つ力と知恵を公共交通に活かし、公共交通事業者と連携することが公共交通の担い手として求められています。こうした公共交通の担い手となる人材が多く自治体で現れることこそ、地域の公共交通の持続性を高める原動力となると信じてやみません。

---

3. ニュース／トピック

●第16回「日本鉄道賞」の受賞者の決定について【国土交通省】

国土交通省では、鉄道に対する国民の理解と関心を深め、鉄道の一層の発展を期することを目的とする「日本鉄道賞」において、今年度の受賞者を決定しました。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/tetsudo02\\_hh\\_000093.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/tetsudo02_hh_000093.html)

●リヤカー付三輪電動アシスト自転車のアシスト力が引き上がります【国土交通省、経済産業省】

平成29年10月末を目途に、リヤカー付三輪電動アシスト自転車のアシスト力（人がペダルを踏む力に対して駆動補助機が補助する力の比率）の上限を、現行の2倍から3倍に引き上げる改正道路交通法施行規則が公布・施行されます。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha04\\_hh\\_000140.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha04_hh_000140.html)

<http://www.meti.go.jp/press/2017/10/20171019003/20171019003.html>

●「スマート交通一般に関するガイドライン」の国際規格の発行について【経済産業省】

経済産業省では、都市課題の解決に資するスマート交通の導入を促進するため、国際標準化機構（ISO）において、「スマート交通一般に関するガイドライン」について標準化の提案をしていたところ、この度、国際規格（ISO37154）として発行されました。今後、この国際規格を通則として、我が国が有する各種交通サービスや技術の導入が促進され、世界の各都市が抱える課題の解決に貢献することが期待できます。

<http://www.meti.go.jp/press/2017/10/20171004001/20171004001.html>

●神戸の都心内で観光バスの路上混雑緩和に向けた実証実験について【近畿運輸局】

近畿運輸局では、平成29年度訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業（実証事業）を活用し、より魅力的で賑わい溢れるまちの実現に繋げるべく、神戸市をはじめとする関係者間での協力の下、観光（貸切）バスの路上混雑緩和に向けた実証実験を行います。

<http://www.tb.mlit.go.jp/kinki/press/10pdf17-155.pdf>

●「とちぎの公共交通と芳賀・宇都宮 LRT」パネル展の開催について【栃木県】

栃木県では、県が行っている公共交通の維持・充実に向けた様々な取り組みや、宇都宮市と芳賀町が導入を進めている LRT について、広く県民に理解していただけるよう、「とちぎの公共交通と芳賀・宇都宮 LRT」のパネル展示を県内の道の駅などで開催いたします。

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/h03/koukyoulrt/michinoekipanel.html>

●バス乗り放題デーの実施について【伊那市】

伊那市では市内の路線バスにどなたでも無料で乗車できる「バス乗り放題デー」を実施します。普段バスを利用されない方も、この機会にぜひバスをご利用ください。

[http://www.inacity.jp/kurashi/kotsu\\_jikokuhyo/kotsu\\_news/20160727norihodai.html](http://www.inacity.jp/kurashi/kotsu_jikokuhyo/kotsu_news/20160727norihodai.html)

●石垣島におけるエコアイランド化推進に関する提携について【住友商事株式会社】

石垣市と住友商事株式会社は、石垣市が目指す「新たな価値の創造による“持続可能な発展”を目指した島づくり」の支援を目的に提携します。まずは、年度内に石垣市内にバッテリー交換式電動スクーター(台湾・Gogoro 製、以下「スマートスクーター」)を導入し、交換式バッテリー用充電ステーション(同、以下「GoStation®」)を数か所に設置する事業に着手します。

<http://www.sumitomocorp.co.jp/news/detail/id=30341>

●黒鉛の2倍容量の新酸化物負極を採用した次世代二次電池 SCiBTM を開発【株式会社東芝】

株式会社東芝は、リチウムイオン電池の負極材として一般的に使用される黒鉛と比較して、2倍の容量を持つチタンニオブ系酸化物を負極材に用いた、次世代リチウムイオン電池(次世代 SCiBTM)の試作にこのたび成功しました。本次世代 SCiBTM は高エネルギー密度でかつ超急速充電が可能であり、電気自動車(EV)用途に適しています。EV に搭載すると、6分間の超急速充電で、従来のリチウムイオン電池を搭載したコンパクトEVと比較して走行距離を3倍の320kmに延ばすことが可能です。

[http://www.toshiba.co.jp/about/press/2017\\_10/pr\\_j0301.htm](http://www.toshiba.co.jp/about/press/2017_10/pr_j0301.htm)

●「バスロケーションシステム」リリースについて【株式会社ゼンリンデータコム】

株式会社ゼンリンデータコムはPCIソリューションズ株式会社と共同で、利用者がアプリをダウンロードすることなく、バスの運行情報を的確に把握することができる、「バスロケーションシステム」を開発し、販売を開始しました。

[https://www.zenrin-datacom.net/newsrelease/pdf/20171011\\_01.pdf](https://www.zenrin-datacom.net/newsrelease/pdf/20171011_01.pdf)

●バッテリー技術の新たな研究開発拠点を設立【イギリスビジネス・エネルギー・産業戦略省】

イギリスビジネス・エネルギー・産業戦略省(BEIS)は、低炭素型経済への移行で重要となる次世代バッテリー技術の新たな研究開発拠点、ファラデーバッテリー研究所の設立パートナー大学を発表した。パートナー大学はニューキャッスル、オックスフォードなど国内の7大学。企業や他の研究機関の研究者らも加わって、バッテリー技術の基礎研究を進めます。

<https://www.gov.uk/government/news/business-secretary-announces-founding-partners-of-65-million-battery-technology-research-institute>

---

#### 4. イベント情報

- **くらしの足をみんなで考える全国フォーラム 2017**  
日時:2017年10月28日(土)、29日(日)  
場所:東洋大学白山キャンパス  
主催:くらしの足をみんなで考える全国フォーラム実行委員会  
<http://zenkokuforum.jimdo.com/>
  
- **第24回 ITS 世界会議モントリオール 2017**  
日時:2017年10月29日(日)～11月2日(木)  
場所:Le Palais des congrès de Montreal  
主催:ITS America / ITS Canada  
[http://www.its-jp.org/katsudou2014/tabid\\_100/montreal-2017/](http://www.its-jp.org/katsudou2014/tabid_100/montreal-2017/)
  
- **平成29年度地域公共交通シンポジウム in 中部**  
日時:2017年11月2日(木)13:00～17:20  
場所:東建ホール・丸の内  
主催:国土交通省中部運輸局  
<http://www.tb.mlit.go.jp/chubu/press/pdf/kousei20170929.pdf>
  
- **2017 E-KIZUNA サミットプレミアム in さいたま**  
日時:2017年11月7日(火)10:45～17:30  
場所:ホテルブリランテ武蔵野  
主催:さいたま市  
[http://www.city.saitama.jp/006/014/008/003/006/007/p038777\\_d/fil/1107e-kizuna.pdf](http://www.city.saitama.jp/006/014/008/003/006/007/p038777_d/fil/1107e-kizuna.pdf)
  
- **エコモビリティライフ県民の集い 2017**  
日時:2017年11月8日(水)  
場所:愛知芸術文化センター12階 アートスペースA  
主催:愛知県・あいちエコモビリティライフ推進協議会  
<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/kotsu/291108ecomobi.html>
  
- **エコ&セーフティ 神戸カーライフ・フェスタ 2017**  
日時:2017年11月11日(土)、12日(日)  
場所:メリケンパーク  
主催:環境省、神戸市、一般社団法人日本自動車連盟  
<http://carlife-festa.com/>

●第 15 回 地域バス交通活性化セミナー

日時:2017 年 11 月 17 日(金)13:30~16:45

場所:ハピリン 3 階「ハピリンホール」

主催:国土交通省中部運輸局、エコモ財団、福井県

[http://www.ecomo.or.jp/environment/bus/15th\\_seminar.html](http://www.ecomo.or.jp/environment/bus/15th_seminar.html)

●平成 29 年度エコドライブシンポジウム

日時:2017 年 11 月 29 日(水)

場所:コクヨホール

主催:エコドライブ普及推進協議会、エコモ財団

[http://www.ecomo.or.jp/environment/ecodrive/data/ecodrive\\_sympo17.pdf](http://www.ecomo.or.jp/environment/ecodrive/data/ecodrive_sympo17.pdf)

●第 15 回 ITS シンポジウム 2017

日時:2017 年 12 月 7 日(木)~8 日(金)

場所:九州大学 伊都キャンパス 椎木講堂

主催:特定非営利活動法人 ITS Japan、九州大学

[http://www.its-jp.org/event/its\\_symposium/15th2017/](http://www.its-jp.org/event/its_symposium/15th2017/)

●エコプロ 2017

日時:(1 日目)2017 年 12 月 7 日(木)10:00~18:00

(2 日目)2017 年 12 月 8 日(金)10:00~18:00

(3 日目)2017 年 12 月 9 日(土)10:00~17:00

場所:東京ビッグサイト 東ホール

主催:一般社団法人産業環境管理協会、日本経済新聞社

<http://eco-pro.com/2016/2016/ecopro2017.pdf>

●第 13 回全国路面電車サミット

日時:2018 年 1 月 13 日(土)~14 日(日)

場所:メルパルク松山など

主催:第 13 回全国路面電車サミット 2018 松山実行委員会

[http://www.racda-okayama.org/wp-content/uploads/2017/10/Summit-Matsuyama-2018\\_A.pdf](http://www.racda-okayama.org/wp-content/uploads/2017/10/Summit-Matsuyama-2018_A.pdf)

---

## 5. その他

- EST パートナシップ会員制度に参加する団体を募集しています！  
2013年7月16日から募集を開始し、37団体が参加しています。  
会員サイトトップページで、交通と環境に関するニュースをリアルタイムで掲載しています。  
[http://www.estfukyu.jp/partnership\\_gaiyo.html](http://www.estfukyu.jp/partnership_gaiyo.html)
- EST 普及推進委員会事務局は Twitter による情報提供を始めています！  
<https://twitter.com/officeEST>
- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ  
<http://www.green-m.jp/>
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！  
<http://www.ecomo.or.jp/environment/eco-commuter/index.html>
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！  
配信申込はこちらから  
<http://www.mm-education.jp:80/magazine.html>
- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！  
[http://www.ecomo.or.jp/environment/carbon\\_offset/carbonoffset\\_system.html](http://www.ecomo.or.jp/environment/carbon_offset/carbonoffset_system.html)
- 記事募集中！  
本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。  
EST、または「交通と環境」に関連する取組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。 → E-mail: [magazine@ecomor.jp](mailto:magazine@ecomor.jp) (担当: 熊井)

---

発行: 環境的に持続可能な交通 (EST) 普及推進委員会事務局  
(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<http://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

[https://p.blayn.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail\\_ecomo](https://p.blayn.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail_ecomo)

EST ポータルサイト: <http://www.estfukyu.jp/>